

再評価結果（平成17年度事業中止箇所）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課
 担当課長名：西村 泰弘

事業名	主要道道 北見白糠線 <small>きたみしらぬか</small>		事業区分	北海道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道足寄郡足寄町上足寄 <small>あしよろぐんあしよろちょうかみあしよろ</small> 至：北海道白糠郡白糠町上茶路 <small>しらぬかぐんしらぬかちょうかみちやろ</small>				延長	27.0km
事業概要	主要道道北見白糠線は、北見市から白糠町に至る延長約9.2kmの道路であり、このうち、足寄町上螺湾から白糠町上茶路を結ぶ延長22.3kmの区間が開発道路に指定されています。本路線の整備は、通行不能区間の解消と、十勝地域や網走地域と釧路地域の短縮ルートによる圏域相互の地域間交流、産業振興、広域観光ルートの形成支援を目的とした事業である。					
S59年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	S61年度用地着手	S61年度工事着手			
全体事業費	約201億円		事業進捗率	38%	供用済延長	15.0km
計画交通量	1,100台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 0.4 (残事業) 0.8	総費用 (事業費) / (事業全体) 107 / 225億円 (事業費：101 / 212億円) (維持管理費：6 / 13億円)	総便益 (残事業) / (事業全体) 82 / 82億円 (走行時間短縮便益：73 / 73億円) (走行経費減少便益：8 / 8億円) (交通事故減少便益：1 / 1億円)	基準年 平成16年		
感度分析の結果	事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=0.4(交通量 +10%) B/C=0.3(交通量 -10%) 事業費変動：B/C=0.3(事業費 +10%) B/C=0.4(事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=0.3(事業期間+20%) B/C=0.5(事業期間-20%)					
事業の効果等	・物流効率化の支援（農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上する） ・国土・地域ネットワークの構築（現道における交通不能区間を解消する） 他4項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	地元自治体からは、路線の整備要望がだされていますが、「昨今の厳しい経済情勢から事業継続が困難な状況は理解できるものの、整備効果は変わらず継続要望はある。今後は物流の効率化や観光振興などに資する社会資本の整備などを要望する」との要望が出されている。また、北海道からは、「現在の事業の進捗状況及び事業執行上の課題等を総合的に勘案すると、事業の中止もやむを得ない」との意見が出されている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成15年度までに北海道横断自動車道帯広JCT～足寄IC間、帯広JCT～本別IC間が供用している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成15年度までに開発道路区間22.3kmのうち15.0kmを北海道に引き継いでいる。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	残区間は、急峻な山岳地帯を貫くルートとなり、トンネルや橋梁等の大規模な構造物が多くなる。他、山間傾斜地の開削土工も予定されており、施工にあたっては工事用道路として利用可能な林道もなく、一方向からの片押し施工となる。また、積雪により工事期間も限定される。これらの現地の条件を勘案すると、全線供用は最短でも平成20年代後半以降となることが予想される。					
施設の構造や工法の変更等	既存林道を活用し、1.5車線の整備を行っても、走行速度が低下するため便益の増加が見込めず、有効なネットワーク形成とならない。					
対応方針	事業中止 今後は、本路線周辺の物流効率化、災害に強いまちづくり、観光振興等を推進するための社会資本整備の検討を進める。					
対応方針決定の理由	事業の投資効果、事業進捗の見込み、代替案立案の可能性及び関係地方公共団体等の意見を総合的に判断した。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。